

編集後記

著者	浅原 正幸
雑誌名	言語資源活用ワークショップ発表論文集
巻	5
ページ	390-390
発行年	2020
URL	http://id.nii.ac.jp/1328/00003184/

編集後記

今回のワークショップでは、42 件のポスター発表がありました。オンライン開催にもかかわらず、発表申込をしてくださった方々に感謝いたします。当初予定の OSF Meeting を用いた発表の準備が滞っており、急遽開催 1 週間前に、Slack を用いた発表に切り替えました。開催に際しまして、以下の点に注意して準備しました：

- ・ポスター1 件ごとに「チャンネル」を作成し、登録時にすべての参加者がすべてのチャンネルに自動的に登録するように設定する
- ・チャンネルは、発表者の裁量で Youtube 配信・Zoom による発表などできるようにする
- ・ポスター発表には、コミュニケーションをとるための「コアタイム」を無理のない 1 時間程度設定する
- ・ポスター発表のコアタイム間は、適度なインターバルをあける
- ・参加者を Slack に誘導するべく、セッション開始 5 分前に「自動配信メール」を送る
- ・当日参加者にも、「自動返答フォーム」により、当日行われる発表の Slack の各チャンネルの URL を送る
- ・ポスター発表間に、講習会動画セッション・KOTONOHA 検索コンテスト 2020 を開催し、「zoom」(300 人まで参加)と「Youtube」にて配信する

オンライン開催では、過去最大の 422 人の参加申込(海外 71 人、学生 123 人)があり、Slack の参加者数 340 人、Zoom の参加者数 274 人(9/8)・176 人(9/9)、Youtube 視聴 304 回 132.9 時間(9/8)・142 回 67.6 時間(9/9)と、多様な形態でご参加くださいました。どうもありがとうございました。

また、優秀発表賞となる発表が 6 件ありました。その中で、金沢大学の南亜希子氏の発表「外来語サ変動詞における日本語母語話者の許容状況 —I-JAS に基づく例文を用いた調査から—」が受賞しました。おめでとうございます。

言語資源活用ワークショップは、次回が最終回となります。対面形式になるかオンライン形式になるか、情勢は不透明ですが、今回の経験に基づき、しっかりと準備してまいりたいと思います。

国立国語研究所
コーパス開発センター
浅原正幸